

令和4年度 学校 評価 表					
		学校番号	18	学校名	長野工業高等学校
学校教育目標	自らの人生と新たな社会の創造に誠実に努力する人を育てる。				
学校重点目標	【高校生の人格を磨き、可能性を最大限伸張させるために、次の目標を推進する】 ○普通科と専門科の両方の学力を伸長する。 ○5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）を軸に、基本的生活習慣や礼節を養う。 ○生徒個々の可能性や能力を最大限伸ばし、自己実現をサポートする。 ○人権を尊重し、いじめや体罰を許さない安全安心な学校づくりを推進する。 評価基準：A 十分満足している B 満足している C 不満足である				
評価対象	評価項目	評価の観点	評価	成果や次年度への課題（概要）	
学習指導	教育課程	・新学習指導要領に基づき、令和5年度のシラバスを策定する。	B	令和5年度のシラバスの書式を変更し、作成中である。令和4年度入学生教育課程を年度途中に変更した為、生徒・保護者・県への説明が必要になった。各科で先を見通した計画を立てたい。	
	学習指導	・基礎学力診断テストや定期テスト結果を分析することで学力実態を的確に把握し、基礎学力の着実な定着と向上を図るための対策を講じる。 ・GIGAスクール構想に対応してICTを活用した授業改善をすすめ、基礎学力の定着・向上や探究的な学びのための授業展開への活用を研究し、教員相互の研修を深める。 ・新しい学習評価の実践と分析をすることで授業改善へとつなげ、生徒の「主体的・対話的で深い学び」が授業でなされるよう、教員の指導力向上を図る。	C	・ベネッセ担当者と担任団との分析会を実施し、懇談会などでの最適な指導法を検討し、提供することができた。 ・コロナ禍での授業で教員全員がICTを活用した授業を展開せざるを得なくなったため、ICTを活用した授業そのものは今まで以上に開発が進んだ。しかし、その提案や共有はできなかった。次年度は実施したい。 ・新しい学習評価の実践が各教科で進められた。担当者のへのアンケートと分析を行い、教員間で学習評価の実情や問題点を共有することができた。 ・生徒への「授業評価アンケート」が未実施である。早急に実施し、年度末までには分析して共有を図りたい。	
	キャリア教育	・地域の企業と連携し、インターンシップ(就業体験)を推進することで職業観を育成するとともに、キャリア教育のより一層の充実を図る。そして、地域を担い世界に貢献できる人材の育成に努める。 ・産業界、支援機関との懇談の機会を増やし、連携の強化を図る。 ・高大連携をさらに推進し、先端技術の理解と学びの姿勢の向上、プレゼンテーション力のスキルアップを図る。 ・コミュニケーション能力や情報活用能力の育成を図る。	B	・インターンシップにおいては、コロナ禍の影響で実施が心配されたが、地域企業の協力で実施することができた。参加生徒170人、企業のべ86社に協力を頂いた。 ・信州大学工学部との「高校生研究室体験プロジェクト」に機械工学科、電気電子工学科、情報工学科、物質化学科、土木工学科、建築学科の生徒が参加し、各科が連携する学科の研究に取り組んだ。また、諏訪東京理科大学との連携では、電気電子工学科、情報工学科の生徒たちが研究に取り組んだ。いずれも最先端の研究に参加できる機会が得られた。	
	資格検定等	各種コンテスト、資格取得や技能検定へ積極的に取り組めるように、案内、指導助言を行う。	B	・専門性を生かした資格取得や技能検定認定などの生徒の取り組みを進めた。コロナ禍ではあるが、感染対策を行うことで開催を中止することなく、積極的に実施できるよう努めた。	
進路指導	進路実現	・生徒や保護者の要望にそった進路情報の提供と、生徒自身の目標・能力・適性に応じた進路が実現できるよう、企業・上級学校の現状を踏まえた適切な指導・助言を行う。	A	・卒業学年の保護者を対象に説明会を複数回設け、全保護者に本校における進路指導方針等へのご理解とご協力をお願いした。進路情報の提供はその都度繰り返し提供することができた。	
		・オープンキャンパス、インターンシップ等の校内では得られない体験を通じて、職業観の醸成や将来の生き方を考えさせる。また、この目的を充実させるために、対面による企業説明会、学校説明会だけでなく、増加傾向にあるオンラインによる説明会も積極的に活用する。	B	・今年度はコロナ禍以前に開催されていた各種イベントがほぼ例年通り計画された。そこへの生徒・保護者および職員の参加は感染防止に努めながら実施することができた。各企業とも本来得られる情報が不足しないようにとの観点からか、リモートによる説明会は激減した。しかしながら、リモートを活用する場面では、各科の協力のもと滞りなく実施できた。	
		・生徒の進路実現のために学年進行に沿った系統的な指導を充実させるとともに、就職先・進学先の情報収集や研究、開拓等を行う。	B	・ほぼ計画通りの指導ができたといえるが、その効果等適切な振り返りが今後とも必要である。次年度は、基礎学力のさらなる定着に向けて、関係教科との連携を深めたい。	
生徒会	班・同好会活動の充実	・コロナ禍ではあるが、感染対策を十分に取ながら、生徒の学びを極力止めぬよう創意工夫し、生徒達の可能性や能力を最大限に伸ばせるよう班・同好会の活動を支援する。	B	・班、同好会の活動については、感染対策を講じた上で活発な活動ができ、各種大会などでは好成績を収めることができた。課題は、やる気ある班活と、全く活動していない班活とのギャップであろう。（班活精選も視野に入れる必要がある。）	
	自主活動への支援	・地域との連携を生徒会活動の重要な柱と考え、生徒が企画・運営に積極的にかかわる中で、自主性を育めるようサポートする。また、生徒会の諸行事を通して、執行部を中心に全校生徒が創造性を発揮できるように支援する。	A	・安茂里地区のイルミネーション設置や街頭の交通安全指導を積極的に行い、地域の方と良い交流ができた。また、今年の学校開放(長工祭)は一般公開に踏み切り、各クラスや班が充実した企画を発表し、生徒会執行部のみならず、全校生徒が一丸となって盛り上げ、大成功のうちに終了することができた。	
清 美	清掃美化活動	・清掃活動が円滑に行えるよう清掃用具の充実等に努めるとともに、校内美化について意識の向上を図る。 ・引き続きゴミの分別と資源化をすすめ、ゴミ総量の減量についても取り組む。	B	・清美用具の充実については係内の情報共有を円滑に行い、過不足なく行うことができた。校内美化の意識向上については生徒会清美委員会の指導を軸に行ったが、目に見えた成果にはつながらなかった。ゴミの分別と資源化は引き続き取り組めたが、ゴミ総量の大きな減量は達せられなかった。	
生徒指導	安全安心な学校	・校内情報の共有化により、職員一致による協力体制を図り、安全・安心な学校作りを行う。 ・交通ルールの遵守を呼びかけ、登下校中の交通事故防止に努める。	B	・貴重品の盗難やいじめ等の報告件数は減少したが、交通事故件数は増加した。次年度も全職員に協力を仰ぎ、恒常的に取り組んでいきたい。	
	基本的生活習慣	・頭髪等の身だしなみをはじめ、5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)や挨拶を励行すること、時間を守ること等の指導を通して、常識ある行動ならびに社会で通用する基本的生活習慣とマナーの確立を図る。 ・地域に信頼され、評価される長工生を目指す。	B	・例年に比べ、朝の遅刻がだいぶ減少した。これは、担任を始め、全職員で遅刻を少なくすることを目標に取り組んできたことが功を奏した結果であり、次年度も続けていきたい。 ・問題行動件数も、昨年度より減り、全体的に落ち着きがかもし出されている。 ・来年度は、登下校の自転車運転マナー遵守を更に徹底したい。	
開かれた学校づくり	授業公開等	・授業公開や研究授業を実施し、地域や保護者の声に耳を傾けながら、授業改善や教員の指導力向上を図る。	A	・公開授業の実施(5/28、6/16) ・研究授業の実施(国語科、数学科、美術科) ・数学科では中学との数学教育連絡協議会を利用して、数学科全教員による授業実践を公開した。	
	広報活動の充実	・本校の教育活動を広く理解してもらえるよう、学校案内・HPを充実させ、活気ある学校をアピールする。 ・報道機関への情報提供を積極的に行い、各種メディアを利用して活動情報の発信を図る。	A	・年度当初よりHPの更新により学校の情報を伝えるべく取り組んだ。学校行事、中学生の体験入学、班活動など積極的にHPで情報を発信できた。 ・地元のテレビで学校の活動が取り上げられるなど、メディアからの情報発信も行われた。	
	PTA活動	・諸々の課題を保護者と教職員が共有すると共に、生徒の健全育成に努めるために連絡を密にする。(オクレンジャーの積極的な活用) ・教育効果向上のために助成をはかる。	A	・今年度は緊急一斉連絡網の積極的な活用により課題共有や連絡の徹底が進んだ。保護者との連携のみではなく、PTA総会等の出欠確認を緊急一斉連絡網により行ったためペーパーレス化も推進できた。緊急一斉連絡網で研修案内を行い積極的に研修へ参加して下さった方もいた。 ・生徒の健全育成のため、長工祭への協力(展示・販売)も行いPTAから生徒会へ寄付も行った。教育活動充実のため、進路関係への助成も新たに実施できた。	
	生徒募集	・本校の魅力を伝えるため、中学校訪問や進学説明会等の企画および内容について一層の充実を図る。 ・中学生や保護者が本校の教育内容に興味・関心を持ち、本校受検につながるような情報発信を工夫する。特に、ホームページ掲載情報の更新・充実を進める。	A	・中学校へのアピールは学校長自ら出向き、熱く本校の魅力を伝えられた。また、生徒保護者対象の学校説明会(7/29)、体験入学(11/3)、入試説明会(12/9)では各科ごとに中学生や保護者に科の特徴や進路アドバイスなど伝えられた。アンケートの結果も好意的なものが多かった。 ・HPでの各科の情報発信は更新をして、新しい情報の発信が必要。	